

地域レベルの会議における主な議論のまとめ (地域の課題および市の課題)

- (1)地域で起きている問題と課題は、1～9のテーマに分類し、地域個別ケア会議と地域包括ケア推進会議で話し合われた内容をそれぞれ記載した。
- (2)地域での対応方針は、地域包括ケア推進会議で挙げられたものを内容に応じて、「実態把握」、「普及啓発」、「連携強化」、「取組検討」の4つに分けた。
- (3)個別ケア会議で複数のテーマに跨る事例については、主なテーマ部分を太字で、それ以外は「再掲」と表記した。
- (4)市レベルの課題は地域個別ケア会議と地域包括ケア推進会議で挙げられたものをそれぞれ記載した。

松戸市地域ケア会議におけるテーマ

テーマ
1. 生活の困りごと (介護予防・生活支援・移動支援・ペット等)
2. 認知症
3. 権利擁護（虐待含む）
4. 見守り
5. ケアラー支援
6. 防災
7. 医療・介護連携
8. 多分野・多文化・地域共生
9. 地域で支える仕組み

テーマ	(1)地域で起きている問題と課題		(2)推進会議で話し合われた 地域での対応方針		(3)市レベルの課題		推進会議で話し合 われた地区
	個別ケア会議	推進会議			個別ケア会議	推進会議	
1.生活の困りごと (介護予防・生活 支援・移動支援・ ペット等)	【介護予防】 ○認知症の理解がなければイン フォーマルの支援は難しい（個 38） ○若い頃からの健康教育、健康意 識を高めるための取り組みが必要 （個40） ○糖尿病等の進行予防のため自宅 で運動ができると良い（DVDの 活用など）（個43） 【生活支援】 ○要支援者へ訪問介護が入れない 等、公的サービス不足（個13） ○独居高齢者等が徒歩圏内で気軽 に日々の困りごとを相談できる窓 口・場が少ない（個27・個15再 掲） ○独居となり寂しさを感じている 高齢者等が集える場が必要（個 18・個42） ○ゴミ出し日にヘルパー調整がで きない時等のゴミ出し（個36・ 個56再掲） ○気軽に男性が集まって活動が出 来る場などが少ない（個55） ○認知機能が低下した高齢者が安 心して社会参加できる場が少ない （個58） ○お金がない方でも利用できるイン フォーマルサービスの充実（個 2再掲） ○生活保護受給者などへの軽費 サービスの不足（個13再掲） ○社会資源の発掘、周知、不足 （個18再掲・個27再掲） ○地域包括の圏域内での資源の量 の差が大きい（個59再掲）	【生活支援】 ○病院や介護事業所で働いている 専門職は、地域の元気な高齢者との 接点が少ない（明2西） ○地域は限定的だが買い物に出か けることが困難な高齢者がいる （明2東） ○地域高齢者の課題の共有、企業 の行っている取り組みと、今後行 えそうな取り組みの把握（本庁） ○必要な人に必要な情報が届か ない（小金） ○支援が行き届いていない高齢者 が増えてきている（馬橋）	実 態 把 握	○移動販売車停車場所案：公園、自治 会館、クリニック、お寺さんの駐車場 等。施設の駐車スペースをぜひ利用し てほしい。	○要支援、暫定中の生活支援の社 会資源が少ない ○介護保険以外の生活援助（粗大 ごみを出す、受診同行、院内介助 など）、高齢者の困りごと、課題 をアンケートなどで実態調査（当 事者だけでなく医療、介護関係者 からも）		明2西 明2東 本庁 小金 馬橋
			普 及 啓 発	○チラシの作成、配布 ○MSWからの情報提供 ○民生委員からの情報提供 ○オレンジ協力員からの情報提供	○様々な行政手続きのサポート体 制、周知方法 ○介護者向けの教室の開催と専門 職の派遣 ○若いうち（40～50代）から自 身の健康意識を醸成するため、健 康教育の啓発を行う	○効果的な情報発信の仕組み作り ○情報発信をしてくれる人を増や す仕組み作り	
			連 携 強 化	○医療・介護の専門職と地域包括の共 同で開催する介護予防・フレイル予防 教室を増やす ○有償ボランティアの利用や、移動販 売、買い物ツアーの積極利用や地域への誘致 ○専門職同士で情報の共有をする	○子どものうちから生活の営みに 係る見方、考え方を学ぶ	○移動手段確保に関して、交通や 送迎サービス等をおこなっている 幅広い企業や事業者との連携を 行っていく	
		取 組 検 討	○移動販売日にベンチを出して、休憩 スペースを作り地域住民の方と入居者 とのコミュニケーションの場所として 提供したい。自宅内のスペースを貸す ことも可能。公園は午後だと子育て世 代も利用できるのではないかな。多世代 交流ができることを期待したい。 ○地域の中で高齢者が参加する場所を 創出できないか、町会に働きかけてい く	○特定の軽度介護認定者への訪問 介護等公的サービスの不足 ○認知機能が低下した高齢者が安 心して社会参加できる場づくり ○気軽に男性が集まって活動が出 来る場などが少ない	○買い物困難者への支援策の充実 ○介護保険サービスが必要な高齢 者が、スムーズにサービスを利用 できるような仕組み作り。		

テーマ	(1)地域で起きている問題と課題		(2)推進会議で話し合われた 地域での対応方針		(3)市レベルの課題		推進会議で話し合 われた地区
	個別ケア会議	推進会議			個別ケア会議	推進会議	
1.生活の困りごと (その他)	【ケアマネジャーの仕事の理解】 ○独居や家族と疎遠等でキーパーソン不在の家庭や依存度が高い方が増え、業務の域をこえてケアマネへの負担が大きくなっている（個15・個26・個31・個49・個10再掲・個12再掲） ○ケアマネの仕事が正しく理解されてない（個37・個27再掲） ○カスタマーハラスメント（個36再掲）	【ケアマネジャーの仕事の理解】 ○介護サービスを利用している方は身近なケアマネを頼ってしまう。ケアマネ業務以外の困りごとを解決するための手段や方法を検討する必要がある（常盤平）	実態把握			○社会資源の発掘・周知	常盤平
			普及啓発	○ケアマネが出来ることとできないことを本人と家族に伝えて行く。	○親族がいない・疎遠の高齢者が増えてきており、ケアマネに負担がかかり過ぎている ○キーパーソンが不在な家庭では業務の域をこえてケアマネの負担が大きい。		
			連携強化	○家族で出来ることは支援してもらう			
			取組検討		○ケアマネの仕事の負担軽減	○サービス利用手続きが煩雑な事や困難になっていることへの高齢者のサポート	

テーマ	(1)地域で起きている問題と課題		(2)推進会議で話し合われた 地域での対応方針	(3)市レベルの課題		推進会議で話し合 われた地区
	個別ケア会議	推進会議		個別ケア会議	推進会議	
2.認知症	【若年性認知症】 ○若年性認知症の人の活動や参加のニーズにマッチする受け皿が少ない（個5） ○若年性認知症の人が早期に相談できる窓口が明確でない（個6） ○若年性認知症の方の居場所作りが必要（個56） 【役割・支援体制】 ○認知症になって介護サービスの利用が始まると、地域とのつながりやその人の役割がなくなっていくことが多い（個8） ○認知症があり、独居で身寄りがない（個45・個46） 【認知症の理解・普及啓発】 ○地域において認知症の早期発見・早期支援が重要であると理解・啓発を進める（個14・個16・個54再掲） ○認知症を抱える家族への理解、見守り（個33） ○家族や包括が認知症についての理解を求めても高齢者はなかなか受け入れることができない（個39）	【支援体制】 ○認知症の方への災害対応（五香松飛台）	実態把握	○若年性認知症の人がどこにどれくらいいるのか把握が難しいため、早期相談支援も難しい		五香松飛台
			普及啓発	○若年性認知症の支援経験があるケアマネが少ないため、就労支援や地域活動への参加などのマネジメントができていないことがある ○認知症の普及啓発 ○地域住民の認知症への理解、促進がまだまだ出来てない部分が多い	○防災計画や避難計画の普及啓発	
			連携強化	○民生委員・相談協力員とケアマネとの連携会議を継続実施。	○教育委員会に働きかけ認知サボを必須とするカリキュラムを作る。	
			取組検討	○若年性認知症の人の就労や活動や参加のニーズにマッチする受け皿が少ない ○ゴミ捨ての問題など。居場所作りが必要		

テーマ	(1)地域で起きている問題と課題		(2)推進会議で話し合われた地域での対応方針		(3)市レベルの課題		推進会議で話し合われた地区
	個別ケア会議	推進会議			個別ケア会議	推進会議	
3.権利擁護 (虐待以外)	【防犯】 ○詐欺被害防止のため、啓発をする。その時に起きている手口を地域全体に周知する（個22） ○孤独感や寂しさから、借金を繰り返したり、詐欺被害に遭ってしまう高齢者が増えている（個29） ○認知機能の低下から詐欺被害にあう高齢者が増えている（個57・個25再掲） 【成年後見制度等】 ○身寄りのない独居高齢者の支援（個35） ○金銭管理が必要なケースへの対応（個11再掲・個45再掲・個46再掲） ○成年後見制度の活用促進（個26再掲） ○後見人を付けられず、親族に連絡が取れない方の財産管理の手段がない（個57再掲） 【身元保証人】 ○経済的に困窮されている方の場合は、身元保証契約が高額で繋ぎ先がない（個49再掲）	【防犯】 ○多様化する詐欺被害から高齢者を守るために、支援者として何ができるか（東部） ○孤独感や寂しさから、借金を繰り返したり、詐欺被害に遭ってしまう高齢者増（団地）	実態把握	○ボランティアニーズ（傾聴、団地イベント支援、自治会・社協運営支援）			東部 団地
			普及啓発	○分かりやすいチラシやキャッチコピーを考え、高齢者への周知を継続して行う。医療機関などに協力を依頼して、啓発物が高齢者の手元に届くよう工夫をする ○見守り不在、地縁の欠如が多く見られる中で地域での情報発信の仕組みが必要 ○地区社協ホームヘルプ事業の協力を増やす ○自治会運営や各種イベントの協力を増やす	○孤独感や寂しさから、借金を繰り返したり、詐欺被害に遭ってしまう高齢者が増えている ○認知機能が低下した高齢者の詐欺被害防止の取り組み	○被害額は増えたが、被害件数が減っているため、チラシによる周知活動は一定の効果がある。情報量が多過ぎてチラシが細かくてわかりにくい。絵を活用したり、紹介事例をしぼることで分かりやすくすることで更に有効ではないか。 ○プロボノMATSUDOの理念を広く提唱し活動に繋げる	
			連携強化		○キーパーソンがいない方の緊急時対応や契約等、低料金で利用可能な身元保証のしくみ作り		
			取組検討	○のぼり旗や防犯カメラ（ダミーでも可）などの防犯活動用品を設置して、訪問をためらうような工夫をする		○高齢者が集まれるコミュニティを確立していくことが課題。	

テーマ	(1)地域で起きている問題と課題		(2)推進会議で話し合われた 地域での対応方針		(3)市レベルの課題		推進会議で話し合 われた地区
	個別ケア会議	推進会議			個別ケア会議	推進会議	
3.権利擁護 (虐待関係)	【虐待】 ○身体的虐待を防ぎ生活を継続し ていくためには（個54・個39再 掲） ○家族間で喧嘩が頻発する世帯の 支援（DVや虐待が疑われる） （個7再掲） ○孤立する介護者への支援（虐待 疑い）（個41再掲） ○ダブルケアや虐待分離、認知症 独居など複合的な課題（個44再 掲） 【ネグレクト】 ○同居家族がほぼ帰らず、実質的 独居の方への支援（個37再掲） ○子の拒否から支援介入できない （個47再掲） 【セルフネグレクト】 ○ゴミ屋敷だが掃除ができないゴミ ・害虫屋敷がある（個12） ○掃除やゴミ捨てができず自宅に ゴミがあふれている方の支援（個 13再掲） ○支援拒否によりゴミ部屋等の問 題がある家庭への支援（個30再 掲） ○ゴミ出し日にヘルパー調整がで きない時等のゴミ出し（ゴミ屋敷 になっている）（個36再 掲） ○支援やサービス拒否傾向の方へ の支援（個45再掲）		実 態 把 握		○大掃除が必要な家屋だが、業者 を入れる費用の捻出ができない場 合の対応		
			普 及 啓 発		○介護者に対する認知症等への正 しい理解の啓発		
			連 携 強 化		○現実的にほぼ独居状態にある高 齢者へ支援の充実		
			取 組 検 討				

テーマ	(1)地域で起きている問題と課題		(2)推進会議で話し合われた 地域での対応方針		(3)市レベルの課題		推進会議で話し合 われた地区
	個別ケア会議	推進会議			個別ケア会議	推進会議	
4.見守り	【地域からの孤立】 ○集合住宅住まいや、高齢者の一人暮らしではない世帯と町会・民生委員とがつながりづらい（個20） ○夫婦世帯で居住していると家庭状況が把握しにくく、孤立の早期発見が難しい（個30） 【孤立予防・見守り体制】 ○要援護者への見守り体制等（個17） ○地域として見守りは行なっているが、詐欺に引っ掛かったり、火事を心配するようになっても一人暮らしを継続している人がいる（個25） ○本人の身近な商店や地域が見守り、声掛け（個28） ○親族がいない高齢者は増えてきている（個26再掲） ○同居家族がほぼ帰らず、実質的独居の方への支援（個37再掲） ○オレンジ協力員が話し相手になれると良い（個42再掲）	【地域からの孤立】 ○夫婦世帯は家庭状況が把握が難しく、孤立の早期発見が難しい（団地） 【孤立予防・見守り体制】 ○高齢者見守りに対しての地域と企業の連携（本庁） ○認知機能の低下が進行する前に、また、認知機能の低下が進行してきている方に対して、どんな見守りや支援、交流があれば自宅で安全に生活を継続することが出来るのか（常盤平）	実態把握	○市より提供があった要援護高齢者のためのチェックリストを地域性を加味し再作成する ○ボランティアニーズ（傾聴、団地イベント支援、自治会・社協運営支援）	○独居世帯だけでなく高齢者世帯でも民生委員などの見守り体制が必要		団地 本庁 常盤平
			普及啓発	○見守り不在、地縁の欠如が多く見られる中で地域での情報発信の仕組みが必要 ○地区社協ホームヘルプ事業の協力者を増やす ○自治会運営や各種イベントの協力者を増やす		○後見制度を含めた元気なうちに備えておく仕組み作り ○プロボノMATSUDOの理念を広く提唱し活動に繋げる	
			連携強化	○近所の方や友人に協力をいただく。 ○病院を受診し気持ちを落ち着かせる薬を処方してもらう。	○認知症になると、地域とのつながりが疎遠になってしまう。認知症になっても地域との関わりを継続できるような仕組み作りが必要である。	○見守り協定の推進のための周知強化や協定内容の見直し	
			取組検討			○ケアマネに負担がかかり過ぎないような仕組み作り。	

テーマ	(1)地域で起きている問題と課題		(2)推進会議で話し合われた地域での対応方針		(3)市レベルの課題		推進会議で話し合われた地区
	個別ケア会議	推進会議			個別ケア会議	推進会議	
5.ケアラー支援	【家族の支援促進】 ○介護離職防止に向けた取り組みが不十分（個1） ○家族介護者が、障害認定はないが何らかの障害があり、十分な介護ができない状況にある（個23） ○介護保険サービス等の情報へのアクセスのしにくさ（個47） ○支援者のプライドが高く、支援や提案を受け入れない方への支援（個51） ○本人の支援拒否があり、家族介護者の負担が大きい（個16再掲） 【介護者の孤立】 ○男性介護者が集える場が必要（個21） ○孤立する介護者への支援（虐待疑い）（個41） ○介護者の精神的なサポートがあると良い（個43再掲） 【ダブルケア】 ○一時預かりなど子育て支援サービスを活用し、受診同行など介護時間を確保できるようにする（他市に住む家族の支援）（個44再掲）	【介護者の孤立】 ○養護者の困難に気づくことが難しい（小金）	実態把握		○介護離職防止に向けた取り組みが不十分		小金
			普及啓発	○養護者がリラックスできる場を紹介する。 ○地域の中に介護に理解のある人を増やす。	○子育て世代が受けられるサービス等のケアマネ向けの情報発信		
			連携強化	○介護者が地域で孤立しないようにする必要がある ○介護者が地域で自分のことを気軽に話せる場所や機会が必要。	○認知症と家族の会でも、男性介護者の集いの場を設ける ○高齢者の介護をする家族に、障害認定はないが何らかの障害があり、就労もできず、貧困で生きづらさを抱えている若年層の方がいる。このような若年層の支援が必要 ○体調不良により無職、家族の介護を行い、社会的に孤立する養護者の支援（8050問題）		
			取組検討	○養護者と本人と一緒に集いの場に通う。 ○助け合える仲間を作る ○養護者が困った時の連絡手段が必要。		○つながりの場の創出 ○効果的な情報発信の仕組み作り ○連帯してくれる人を増やす仕組み作り	

テーマ	(1)地域で起きている問題と課題		(2)推進会議で話し合われた 地域での対応方針		(3)市レベルの課題		推進会議で話し合 われた地区
	個別ケア会議	推進会議			個別ケア会議	推進会議	
6.防災	【災害対策】 ○避難時、護送が必要な対象者の具体的な搬送方法が未確定（個19再掲） ○地域によって災害への意識に差がある（個19再掲） ○災害弱者世帯として支援者と地域の方との連携が重要（個34再掲） ○一人で外出出来ない方の災害時の地域との連携（個36再掲） ○町会や民生で避難時要支援者を把握しているが、全員でなく詳細も把握できていない（個37再掲）	【災害対策】 ○災害時の要援護者の避難について、民生委員や町会での支援は限界があるため、近所での支えあいが必要であり、町会ごとに防災に対する意識に差がある。また、坂下の要援護者の避難時の移動方法が確立していない（矢切） ○災害発生時の地域との協力～地域共生社会の実現を目指して～（六実六高台） ○独居や高齢者世帯が多く、災害時に避難できない高齢者が多いと考えられる（新松戸）	実 態 把 握	○災害弱者（認知症、外国人等）は避難所で過ごせない可能性がある ○住民全体の把握が難しい。個人情報 の壁がある	○被災の危険性のある家屋の住宅を修繕するために金銭の問題で出来ない世帯の支援		矢切 六実六高台 新松戸
			普 及 啓 発	○災害時は自助・互助だけでなく近所の支え合いが必要であることの意識付けを、どのように行うかを検討していく ○まずは自分で備えておくことが大事。1週間分くらいの蓄えは用意しておく。 ○各事業所でBCP作成、研修実施 ○避難訓練、備蓄、町会単位で避難ができるよう避難場所確保		○個人の備え、要支援名簿、防災計画や避難計画の普及啓発。	
			連 携 強 化	○矢切地区の防災について町会だけでなく、民生委員や地区社協などと一体的に連携し、意識の統一を図っていく			
			取 組 検 討	○個人情報に留意をしながら、どのような移動手段支援方法があるのかを検討していく ○防災訓練を定期的に行い、備蓄品の確認もしておく。 ○地震を想定した対策は行っているが、水害を想定した対策は行われていない	○地域と避難時避難が必要な人の情報共有をどこまでできるかとその方法の検討	○市を中心に鉄道会社、バス会社等を巻き込み、避難について検討していく ○水害時の避難場所として適正なのかの避難場所の見直し	

テーマ	(1)地域で起きている問題と課題		(2)推進会議で話し合われた 地域での対応方針		(3)市レベルの課題		推進会議で話し合 われた地区
	個別ケア会議	推進会議			個別ケア会議	推進会議	
7.医療・介護連携	【医療・介護連携】 ○外来患者をフォローする医療介護連携体制の構築（個2） ○身体状態や生活状況が悪化している方へのアプローチ方法（個10） ○自宅療養が難しい方の入院・入所受け入れのハードルが高い（個50再掲） 【医療連携】 ○複数科に受診している際、連携がうまく図れない（個50） ○医療機関との連携（個9再掲・個10再掲） 【精神科医療との連携】 ○内科・精神科両方診られる入院先がない（個52） 【特定の病状の理解・覚知】 ○パーキンソン病の支援が必要な人を早期に覚知する体制づくりが必要（個1再掲）		実態把握				
			普及啓発				
			連携強化		○自宅療養が難しい方の一時的な入院・入所先の確保。 ○内科と精神科両方対応している医療機関との連携強化		
			取組検討				

テーマ	(1)地域で起きている問題と課題		(2)推進会議で話し合われた 地域での対応方針		(3)市レベルの課題		推進会議で話し合 われた地区
	個別ケア会議	推進会議			個別ケア会議	推進会議	
8.多分野・多文化・地域共生	【多文化・多世代支援】 ○外国籍の方の支援に伴う課題の整理・支援対策が必要（個3） ○多問題を抱える世帯の対象者に対して、地域としての支援（個34） 【多職種連携】 ○情報連携の集約をシステム化（個4） ○高齢者と同居する家族に精神的・経済的問題のある世帯が増加。他分野の機関のスムーズな連携・情報共有が必要（個7・個9・個11・個19） ○生活保護受給者で金銭管理が難しい方に対しては、ライフラインの確保のために、市から光熱水費等を直接送金する仕組みが必要ではないか（個24） ○ダブルケアや虐待分離、認知症独居など複合的な課題（個44） ○同居の子に障害があり、介入しづらく、今後親亡き後の支援が必要となる（個48・個41再掲） ○高齢者でもなく、障害者ではない若い世代の方の相談先や受け皿が少ない（個53） 医療、障害、高齢福祉分野との連携が必要（個6再掲・個23再掲・個28再掲）	【多文化・多世代支援】 ○外国籍の方の支援に伴う課題の整理・支援対策が必要（明第1） ○地域イベント等の参加者が固定されてしまっており、若い世代、中々外に出ていけない高齢者、障害者や外国人など参加出来ない人も多い（馬橋西） 【多職種連携】 ○支援が必要な状況の中でも本人は困っていない。みなし2号の場合、障害者サービスが優先されるなど介護保険との兼ね合いを検討する必要がある（常盤平） ○8050世帯では自ら声を上げることが少なく、孤立の実態把握が難しい（団地） ○複合的な課題をもった事例に対する支援（小金原）	実態把握	○ボランティアニーズ（傾聴、団地イベント支援、自治会・社協運営支援）			明第1 馬橋西 常盤平 団地 小金原
			普及啓発	○見守り不在、地縁の欠如が多く見られる中で地域での情報発信の仕組みが必要 ○地区社協ホームヘルプ事業の協力者を増やす ○自治会運営や各種イベントの協力者を増やす ○現在開催している行事等を恒例行事として理解してもらい定着できる様に開催する。掲示板、回覧板、スマートフォン等などを活用		○プロボノMATSUDOの理念を広く提唱し活動に繋げる ○健康マイレージのアプリ化やQRコード、WEBの活用促進等。	
			連携強化	○社会的なつながりや何らかしらのサービスを利用し誰かとつながりを作っておく。 ○近所や民生委員の協力も得ながら家族へ関わり、医療、介護、障害、近隣住民で役割分担をしながら支援を行う。	○複合課題を抱える世帯が増えているので、多分野にわたる関係機関のスムーズな連携のためにICTを利用した情報共有ツールの導入が望まれる ○高齢者でも無く、障害者ではない若い世代の方の相談先や受け皿が少ない	○障害者分野と介護保険分野の連携の強化。 ○様々な立場、支援機関が支援が必要な人の存在を知り繋がっている環境づくり ○複合的な課題（障害・精神的問題・引きこもりなど）に対応する事案について、どの機関に相談すべきか、市が具体的な業務内容や支援に関する情報を整理し、相談窓口や関係機関と共有出来る連携システムの構築を求めたい。	
			取組検討	○英語圏以外の外国籍の住民も多いため、コミュニケーション方法の検討 ○外国籍の方が自治体への関わり方や地域交流の場の知る機会を作る	○外国人高齢者に対する支援対策・取り組みが必要 ○ケアマネの仕事の負担軽減	○介護サービス等で外国籍の市民とのコミュニケーションが必要となった際の支援者向けの通訳サービス ○外国籍の市民が日常生活の中で、必要な際に利用できる外国籍の市民に向けた通訳サービス。	

テーマ	(1)地域で起きている問題と課題		(2)推進会議で話し合われた 地域での対応方針		(3)市レベルの課題		推進会議で話し合
	個別ケア会議	推進会議			個別ケア会議	推進会議	われた地区
9.地域で支える仕 組み	【地域の集いの場】 ○精神的不安を抱え孤独に生活している人の活躍の場を増やしていく（個32） ○集合住宅内、その周囲で社会参加できる場がない（個59） 【地域での見守り・交流・支援】 ○近隣の方とのトラブルがある独居高齢者の支援が、地域内で困難になってきている（個60） ○リロケーションダメージを受けた方への支援を検討（ピアサポートの充実など）（個4再掲） ○地域住民に若年性認知症の人が地域で生活する事の困難について理解を深めてもらう必要がある（個5再掲） ○地域づくりに必要な、子ども、子育て世代、高齢者などの世代間交流の機会が少ない（個8再掲） ○コンビニなど個人商店の機能の活用（個27再掲） ○地域イベントのお誘いも情報共有が必要（個38再掲） ○認知症発症前から地域のつながりが必要（個38再掲） ○地域の中で、本人の能力に合わせた役割があると良い（個42再掲） ○地域に介護に対する理解ある人を増やせると良い（個43再掲） ○地域住民での見守り（個47再掲） ○若年性認知症の方の居場所作りが必要（個56再掲）	【地域の集いの場】 ○地域で行われている体操やサロンの情報がまとまっていない（明2西） 【地域での見守り・交流・支援】 ○町会などの地域活動やボランティアの担い手の高齢化が進んでいて若い後継者が少ない（明2西）	実態把握				明2西
			普及啓発	○多世代が参加でき交流できるサロンやイベントを増やし、若い世代に地域活動に関心をもってもらうきっかけにする ○SNSを活用して若い世代に発信しするとともにスマホ教室でSNSを活用できる高齢者を増やす	○集合住宅に住む高齢者の社会参加の場を作る ○住民が集える拠点の確保		
			連携強化		○地域づくりに必要な、子ども、子育て世代、高齢者、障害者などの多世代間・多分野間の交流の機会が活発になるような行政の仕組みができていない。	○高齢者福祉・障害福祉・家庭子育て・地域福祉・共生社会など縦割り組織間が、同じような課題に対して連携して施策立案	
			取組検討		○認知症が原因でトラブルが生じている地域住民への支援		